

大学が行う遺跡の活用

—和東町と京丹後市での実践—

京都府立大学文学部
歴史学科 4 回生
土井 悠起

はじめに

京都府立大学文学部考古学研究室（以下、考古学研究室）は、これまで京都府下を中心に様々な地域で遺跡などの文化財の「調査」を行ってきた。また同時に、そうした調査で得られた成果を伝える「活用」にも注力しており、小学生を対象にしたイベントや成果報告会など、多様な普及活動にも取り組んでいる。2021 年度は、これまで和東町史編さん事業の一環で遺跡の調査などに関わっていた和東町と、京都府立大学地域貢献型特別研究 ACTR（以下 ACTR）の一環で古墳やその出土遺物などを調査してきた京丹後市という 2 つの地域を中心として遺跡活用を進めてきた。今回は、この 2 つの地域での具体的な活動内容を紹介するとともに、そこから得られた成果や課題について検討していきたい。

1 和東町での実践

(1) これまでの経緯

和東町は、京都府南部に位置する、人口 3700 人程度の町である。茶産業が盛んであり、町内のいたるところで茶畑の美しい景観が見られる。毎年 10 月には「茶源郷まつり」が開催され、和東町外からもたくさんの人が訪れる。町内に博物館は存在しないもの

の、国の重要文化財に指定されている和東天満宮本殿や、同じく国の重要文化財の木造多宝塔を有する鷲峰山金胎寺、さらには福塚古墳や坂尻 1・2 号墳、太鼓山古墳（宮内庁が安積親王墓として管理）といった文化財が点在している。町には文化財専門職員は配置されていないが、和東町史編さんのために組織された町史編さん室がある。町史編さん室は計 4 名の職員からなり、内 2 名は事務職員、その他 2 名は近世史を専門とする嘱託職員である。

京都府立大学文学部歴史学科としては、ACTR の一環で、2013 年度から 2014 年度にかけて和東町域の歴史、文化遺産の調査を行っており、菱田哲郎氏が和東川流域の古墳について考察したほか [菱田 2015]、金胎寺の測量調査や神社石造物の調査などを行っている [京都府立大学文学部考古学研究室 2015]。その後 2017 年度から町史編さん事業が始まると、京都府立大学文学部歴史学科教員を中心に、多分野からの調査が行われるようになり、考古学研究室も、2019 年度以降、福塚古墳や坂尻 1・2 号墳の測量調査などを行っている [京都府立大学文学部考古学研究室 2020・2021]。以上のように考古学研究室は和東町内において継続的に調査を行ってきたが、普及活動や遺跡の活用事業などについては町史編さん室主催で、2021 年 10 月に「クイズで知ろう和東天満宮」と題

して小学生を対象としたイベントを開催したくらいで、それほど活発には行われていなかった。

(2)実践の概要

今回の実践にあたっては、和東町史編さん室と協力して、町史編さん事業にかかる調査で明らかとなった成果を、地域住民に伝え、地元で語り継いでいく人材を育成するという目的のもと、いくつかのイベントを行った。考古学研究室もその一環で、2021年9月に「和東町史編さん室展示」において、和東町内の古墳をテーマにした展示会を行い、同年10月の小学生を対象にしたイベント「学ぼう和東の歴史」では、福塚古墳においてクイズの出題を担当した。また、2022年1月には小学生を対象とする坂尻古墳群の現地説明会を開催したほか、現地説明会に先立って、小学生の意識を調査するためのアンケートの実施やチラシを作成し、和東小学校で配布してもらったり、考古学研究室に所属する学生が小学校に赴いて全校集会の中で現地説明会への参加の呼びかけを行う普及活動なども行った。

(3)実践内容

和東町史編さん室展示 和東町史編さん室展示は、2021年9月4日、5日に和東町体験交流センターで開催された。展示内容は町史編さんに向けての調査成果を中心に、古文書や和東町の生き物、古墳などからなる。考古学研究室は、古墳に関するコーナーを担当し、坂尻1・2号墳や福塚古墳の解説ポスター、福塚古墳採集の埴輪の実物展示などを行った(図1・2)。当日は学生を中心として来場者

への解説やアンケートなどを実施した。

来場者は2日間で20名程度であり、アンケートは9名の方に協力していただいた。来場者全体としては年配の方が多く、若年層の来場はほとんどなかった。アンケートの自由記述の中では、「義務教育の中に組み込んでほしい」「お茶のことぐらいしか知らず、和東にこのような古墳があるとは知らなかった」「他の遺跡で出土した有名な遺物と一緒に展示するとより分かりやすくなるのではないか」などの記述が見られた。また、和東町内の古墳に行ったことがあるかという質問では、8割程度の方が坂尻1・2号墳や太鼓山古墳などに行ったことがあると答えており、古墳の存在を認識している人は比較的多いということがアンケートから分かった。

しかし、来場者からのヒアリングでは、和東町民にとって和東の歴史や文化財といったものは、あまり馴染みのないもので、遺跡などの保存や活用に動いてくれる人はなかなかいないだろうという意見などをいただいた。その他、今回のような展示会などのイベントを継続的に開催していくことが大切だという声もあった。

学ぼう和東の歴史 本イベントは、2021年10月30日に和東町内の小学生を対象に和東天満宮で行われた。イベント内容としては、小学生に和東の歴史に興味を持ってもらうことを目的とし、和東の歴史に関する4つのチェックポイントを周遊しながらクイズに回答し、スタンプを集めるというものである。チェックポイントは和東天満宮(平安時代創建)、福塚古墳、和東天満宮境内にある梵鐘(江

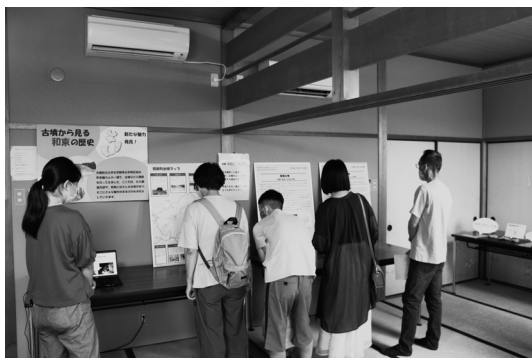


図1 展示会の様子(2021年9月4日、和東町)



図2 展示内容(2021年9月4日、和東町)

戸時代)、東和東小学校跡地(1876～1992年)に設定し、和東天満宮、東和東小学校跡地は町史編さん室の職員、和東天満宮の梵鐘は和東町内に住む奈良大学の文化財学科の学生1名、福塚古墳は考古学研究室の学生6名がそれぞれ担当した。考古学研究室では、事前にスタンプ台紙や看板、埴輪をモチーフにした折り紙やプラ板などの景品を作成した。

当日は大人を含んだ計12名程度が訪れ、4つのグループに分かれて各チェックポイントを周遊してもらった。福塚古墳では、「古墳が造られたのと、和東町でお茶が作り始められたのではどちらが早いでしょう?」といったクイズを出題した。同古墳のことを初めて知った人がほとんどだったものの、クイズには積極的に取り組む様子が見られた(図3・4)。クイズの難易度としては、大人から子供まで楽しめるような内容に設定しており、適切であったと思われる。夫婦で来場された方からは、「和東町のことを知る上で、この

ようなイベントを開催してくれることは非常にありがたい。今後もイベントがあればぜひ参加したい」という言葉もあった。しかしながら、小学生を対象にしたイベントであったにもかかわらず、小学生の来場は極めて少なかった。事前の広報や、小学校との連携の不足など、改善すべき課題も浮き彫りとなった。

坂尻古墳群現地説明会 本説明会は、2022年1月22日に和東小学校の生徒(希望者のみ)を対象に行った(図5)。開催に先立ち、2021年10月に小学生3年生から6年生を対象に和東の歴史に関するアンケートを行ったり、2022年1月17日に考古学研究室に所属する学生5人が和東小学校に赴き、全校集会の中で「古墳探検」への招待と題する普及活動を行った。アンケートの結果としては、現地説明会に行きたいと答えた人の割合が比較的高いことや(図6)、和東の歴史に関心を示す人が多かったことなどが挙げられる(図7)。イベントは、和東町内の全世帯にもチラシにより広報され、人数限定で大人



図3 イベントの様子(2021年10月30日、和東町)



図4 イベントの様子(2021年10月30日、和東町)



図5 説明会の様子(2022年1月22日、和東町)

も参加できるようにした。当日はまず和東町体験交流センターにて古墳についてのガイダンスを行い、その後坂尻古墳群へ移動し、クイズなどを通して古墳や付近の近世信楽道の解説などを行った。来場者は小学生が16人、大人が11人であった。現地では小学生を2つのグループに分け、学生が古墳の解説と信楽道の解説を交替しながら行った。大人については小学生とはグループを分け、教員の菱田哲郎氏と諫早直人氏による現地解説を行った。

当日の小学生たちからの反応は非常によく、とりわけ事前の和東小学校での普及活動でも使用した手づくりの人物埴輪の被り物がたいへん人気であった。また、現地の地理に大変詳しい子供もおり、信楽道に関するクイズを比較的容易に解く姿も見られた。石室内に実際に入ってもらったり、石室内から採取した動物骨なども小学生の興味を引き、イベントを通して楽しんで理解してもらうことができた。

2 和東町での実践における成果と課題

(1) 成果

今回の和東町での活動を通じて、今後の遺跡活用の足掛かりを作ったことは大きな成果といえるだろう。和東町では、残念ながら地域住民との関わりはそれほど持てなかったものの、行政と大学が連携して、地域住民に対して働きかけるに至ったことは、一つの到達点として評価できるのではないだろうか(図8)。こうした活動を通じて、各イベント来場者の少なさなど広報面に多くの課題は残ったものの、一部の町民には着実に和東町内にある遺跡の魅力が伝わっただろう。

また、教育機関、具体的には小学校との連携に至ったことも成果の一つとして挙げることができよう。遺跡を持続可能な形で保存・活用していく上で、子供のころから遺跡をはじめとした文化財が地域の誇りとして認識されることは非常に重要であるが、小学校

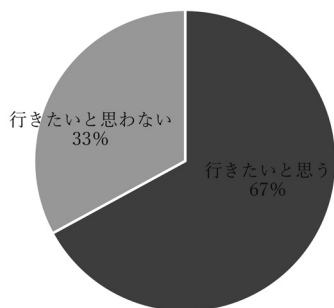


図6 古墳探検に行きたい人の割合 (n = 85)

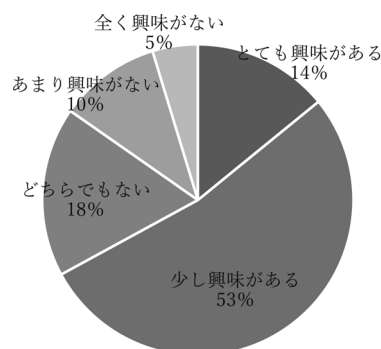


図7 和東の歴史への関心 (n = 84)

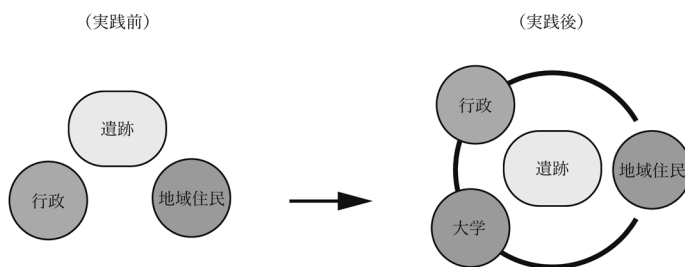


図8 和東町での実践前と実践後

との協力体制は当初からあったものではなく実践を通じて構築されたものであった。同様に、小学校内でのアンケートの実施によって、小学生たちに和束町内の古墳などに対して意識を持ってもらうきっかけを作ることができた。和束小学校のみならず、和束中学校なども含めて子供たちの教育に組み込んでいくことができれば、これまで以上に遺跡の魅力や価値などの認知の幅を広げていくことにも繋がるだろう。

さらに、9月の「和束町史編さん室展示」と10月の「学ぼう和束の歴史」という2つのイベントでは、来場者が十分に集まらないことが課題となったが、1月の坂尻古墳群現地説明会においては、事前の小学校への普及活動の実施や、人物埴輪の被り物により子供たちにインパクトを残せたことが来場者の増加につながった。このように、それぞれのイベントでの課題をもとに、少しずつ活用方法を改善することができたことも今回の大きな成果である。

(2)課題

次に、和束町での活動を通じて、浮き彫りとなった課題について整理しておく。はじめに課題として挙げるのは、地域住民との関わり方の少なさである。9月に行われた展示会においても、10月に行われた小学生を対象にしたイベントでも、企画段階での地域住民との関わりは皆無で、大学と町史編さん室が個別に動いてしまっていたというのが現実である。また、展示会やイベントの当日も来場者は大変少なく、宣伝という面でも大きな課題が残った。さらに、町史編さん室からはイベントを主催する側への参加を町民に促す活動もあったが、町民からは消極的な姿勢が見られた。町史編さん事業を進めていく中で分かってきた地域の歴史を、町民に伝え、町の歴史を語ることでできる人材を育成していくという当初の目標は、今回の活動の中ではほとんど達成することができなかったといえるだろう。文化財専門職が配置されていない和束町において、大学と地域住民のパイプ役となるのは、町史編さん室であったが、今回の活動の中では大学・行政・地域住民という三者でうまく連携をとることができなかった。地域住民との接点をなかなか見出すことがで

きず、イベントにもなかなか人が訪れないという結果となってしまったことは、大学と町史編さん室が、イベントの開催にあたってうまくビジョンを共有できなかったことも一因としてあるだろう。

3 京丹後市での実践

(1)これまでの経緯

京丹後市は京都府北部に位置する、人口52000人程度の市である。市内には国の史跡である網野銚子山古墳や神明山古墳といった日本海を代表する古墳が存在している。同市の文化財保護課は専門職員4人、一般事務職員1人で構成されている。市立の資料館が2館あるが、学芸員として採用されている職員はおらず、文化財保護課の職員がそれぞれの館に非常勤で勤務している。京都府立大学文学部歴史学科では、2014年度に大宮売神社が所蔵する考古遺物や古文書などの整理調査の実施や、学生による展示解説[京都府立大学文学部考古学研究室・中世史研究室2014]、2015年度には、同神社の境内から出土した遺物の考古学的調査を行ってきた[向井2015]。

今回遺跡の活用を行った京丹後市久美浜町須田区は、人口100人程度の地区で、金銅装双龍環頭大刀が出土したことで知られる湯舟坂2号墳をはじめとして、数多くの古墳が点在している。湯舟坂2号墳は1981年に発掘調査が行われ、当時の現地説明会には2000人以上の人が訪れたという。久美浜町が京丹後市と合併する前までは、毎年古墳祭りが開催されており、須田区外の人々も招かれる盛大な催しで、カラオケ大会や須田親睦会、須田婦人会の出店などが行われていた。京丹後市と合併したのちは、現在に至るまで、須田区内の人々で芋煮会やビンゴ大会が行われている。また、湯舟坂2号墳の慰霊祭も現在まで続く行事として毎年秋に行われている。区としては古墳周辺の草刈りや清掃などを行ったり、地域の須田ふるさと委員会によって湯舟坂古代の丘公園のトイレの設置や付近のユリガ鼻古墳を散策する遊歩道の整備などが行われている。

(2)実践の概要

考古学研究室は、2020年度 ACTR「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」に採択されたことを契機として、湯舟坂2号墳を今後地域資源として活用していくためのコンテンツの確保のために、京丹后市教育委員会・京都府立丹後郷土資料館と共同で、基礎資料の掘り起こしを行ってきた。2020年度には奈良文化財研究所の栗山雅夫氏による最新のデジタル撮影機材を用いた出土品の再撮影や、株式会社相互技研の協力のもと、横穴式石室の写真三次元計測などが行われた〔諫早2021〕。今回の実践にあたっては、京丹后市教育委員会、京丹后市久美浜町須田区と共同で、2021年7月24日には湯舟坂2号墳をテーマにしたACTR成果報告会を開催した。同年10月17日には湯舟坂2号墳の慰霊祭とともに小学生を対象にしたスタンプラリーを実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響で来年度に延期することとなり、それに伴い2021年度は慰霊祭のみの開催となった。このような中で、ACTR成果報告会の来場者や須田区民を対象にしたアンケートや、大学・行政・地域住民の三者での意見交換会なども行った。今年度はほかにも須田平野古墳の案内看板を三者で協力して作成し、次年度以降も引き続き同地区内の遺跡の調査や活用イベントなどを計画している。

(3)実践内容

ACTR成果報告会と地域住民との交流 ACTR成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」

は、2021年7月24日に京丹后市久美浜庁舎で開催された。学生は、奈良文化財研究所の栗山雅夫氏が撮影した湯舟坂2号墳の遺構や遺物の写真パネル展を準備し、来場者へ写真パネルの解説を行うとともに、成果報告会や湯舟坂2号墳に対する思い、現状の遺跡の活用のあり方に関する来場者アンケートを実施した(図9・10)。また、パネル展の解説を載せたチラシも学生を中心に事前に作成し、当日配布した(図11・12)。

来場者アンケートは、計49件の有効回答を得た。まず、同成果報告会の満足度を問う質問では、比較的多くの人が満足に感じていたようである(図13)。湯舟坂2号墳に行ったことがある人の割合や、アンケート内の自由記述の回答率などを見ると、須田区に住む方が圧倒的に高い割合を示していることが読み取れ、来場者の中では須田区に住む人の意識の高さが顕著に表れる結果となった(図14・15)。しかし、今回の来場者の多くが須田区民ではないことは考慮すべき点である(図16)。須田区以外の地域に住む人も含め、自由記述の中でとりわけ多かった記述として、「もっと活用してほしい」「子供たちに授業などを通して伝えてほしい」などがある。このほかにも、「大刀がひとり歩きして、墳墓が置き去りにされている」「単体ではなく、地域の姿を想像できるような立体的な活用してほしい」「地元の人でアイデアを出して活用していきたい」など、活用に関する具体的な内容や、積極的に関わっていこうとする姿勢も見られた。



図9 ACTR 成果報告会の様子
(2021年7月24日、京丹后市)



図10 写真パネル展示の様子
(2021年7月24日、京丹后市)



図 11 作成したチラシ (表)



図 12 作成したチラシ (裏)

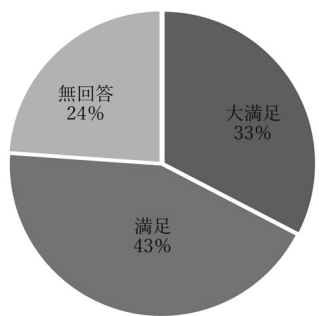


図 13 成果報告会の満足度 (n = 38)

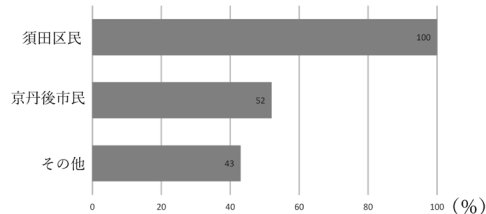


図 14 湯舟坂 2 号墳に行ったことのある人の割合 (n = 48)

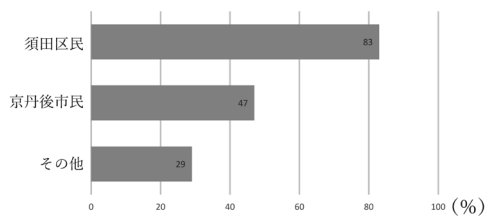


図 15 自由記述の回答率 (n = 49)

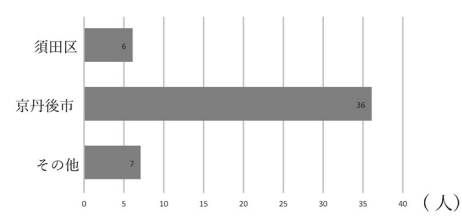


図 16 来場者の居住地 (n = 49)

成果報告会の翌日、7月25日には学生を含む前日関係者と、須田区の方々に湯舟坂2号墳をはじめとする須田区の遺跡を歩き、須田区公民館において今後の活用について意見交換会を行った(図17)。実際に現地を歩きながら活用の具体的なアイデアを出し合ったり、発掘調査担当者から当時の様子などを聞くことができた。

湯舟坂2号墳慰霊祭 2021年の湯舟坂2号墳の慰霊祭は10月17日に行われた(図18)。当初は慰霊祭同日に学生が中心となり、小学生を対象にしたスタンプラリーを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、慰霊祭のみが開催されることとなった。

残念ながら今年のスタンプラリーは中止となったが、来年度のスタンプラリー開催に向けて、慰霊祭前日の10月16日には学生と京丹後市教育委員会文化財保護課の職員、須田区の住民でコースの下見などを行った。その日は地域住民の声を直接聞くこともでき、須田区民からは、高齢化が進み、古墳周辺の草刈りをするだけでも大変な思いをしており、さらには遺跡の保存・活用のために多額の予算を割いているという須田区の現状に対して、大学は自由に調査をしたり講演会を開催したりと、須田区民に直接的にメリットが感じられないという声があった。またそうした点でもっとお互いが協力できる体制を作ってほしいという意見や、大学や行政が実際にどんなことをしているのかがよく分からない、というような意見も出された。

湯舟坂2号墳慰霊祭当日は、京丹後市教育委員会の職員とともに京都府立大学文学部考古学研究室の教員や学生も参加させていただいた。いつもは湯舟坂2号墳の前で行われる読経はあいにくの雨天のため須田区内の大雲寺で行われ、終了後、湯舟坂2号墳に移動し、献花を行った。慰霊祭終了後は、大学、京丹後市、須田区の三者で今後の活動についての打ち合わせも行った。打ち合わせの中では、2021年7月に行われたACTR成果報告会でのアンケートの結果報告や、今後の調査やイベントに先立って、普段は地域住民が行う古墳の草刈りなどに学生が参加し、体験する必要性などについても話し合われた。

須田区全戸配布のアンケート 2021年10月には、須田区の全住民を対象に、遺跡に対する認識や、湯舟坂プロジェクトに対するイメージなどについてのアンケート調査を実施した。アンケートの配布にあたっては、学生が作成した湯舟坂2号墳をモチーフにしたポストカードやチラシ、手紙などをファイルに入れて京丹後市教育委員会、須田区を通じて配布を行った(図19)。

回収できたアンケートの総数は91件、そのうち有効回答のものは73件であった。回答者の年齢を見ると、同地区はかなり高齢化が進んでいることがわかる(図20)。また、文化財に対する関心の有無については、かなりばらつきのある回答となった(図21)。多くの方が湯舟坂2号墳に訪れたことがあることが分かったが(図22)、その一方で湯舟坂2号墳で出土した遺物を見たことがある方は



図17 周遊の様子(2021年7月25日、京丹後市)



図18 慰霊祭の様子(2021年10月7日、京丹後市)



図 19 須田区に全戸配布したチラシ、ポストカードなど

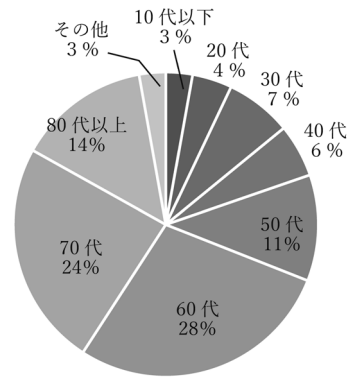


図 20 年代の内訳 (n = 73)

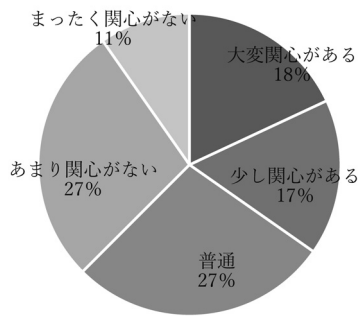


図 21 文化財への関心 (n = 72)

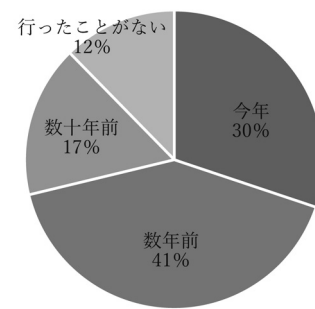


図 22 湯舟坂 2 号墳に最後に行った時期 (n = 73)

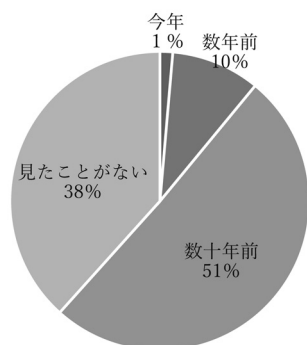


図 23 湯舟坂 2 号墳出土の遺物を最後に見た時期 (n = 73)

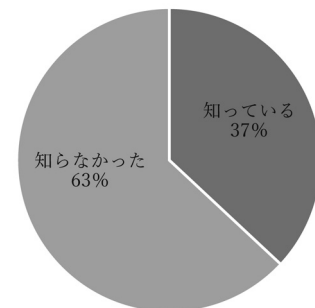


図 24 湯舟坂プロジェクトの認知度 (n = 73)

それほど多くなく、見たことがある人の中でも「数十年前に見た」という人が高い割合を占めており、遺物が展示されている博物館に足を運んでいる人は少ないことが窺える（図23）。また、2021年度における湯舟坂2号墳に関する展示会や成果報告会に行ったことがあるかを問う質問では、それぞれのイベントにおいて行ったことがある人はわずかで、行かなかった理由として「家から遠いから」「仕事の都合で行かなかった」という記述が見られた。湯舟坂プロジェクトの認知度に関しても、知らなかったという人は63パーセントと、あまり認知度は高くないという結果となった（図24）。

今後活用をしていく上で必要なことを問う質問については、「出土品を近くで展示してほしい」「予算の確保が必要」「須田区が若返らないと何をしても変わらない」「区民全体で盛り上げていくことが必要」「人の心をつかめる場所作りが必要」といった意見が見られた。とりわけ予算の確保の必要性を挙げた人や、区民総出で活動を行っていくことの必要性を記述した人が多いという結果となった。本アンケートでは、湯舟坂2号墳自体の認知度は高く、実際に見たことのある方は非常に多かったが、その一方で湯舟坂2号墳をただの遺跡として捉えている人が地域の誇りと捉えている人と同程度いることも浮き彫りになった（図25）。また、湯舟坂プロジェクトに関する自由記述の回答率が低く、湯舟坂プロジェクトについてはまだ地域に浸透していないことも明らかになった。

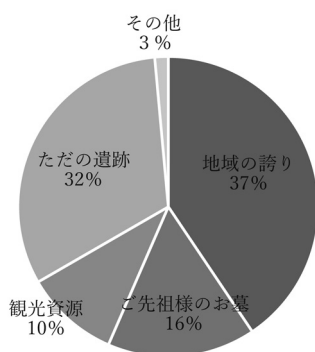


図25 湯舟坂2号墳などの遺跡に対する思い
(n = 73)

4 京丹後市での実践における 成果と課題

(1) 成果

まず、ACTR 成果報告会での来場者アンケートや、須田区に全戸配布したアンケートなどを行ったことにより、地域住民の思い、意識などを定量的に分析できたことは大きな成果といえるだろう。どれぐらいの人が遺跡をはじめとする文化財に興味を持っているのか、湯舟坂2号墳を訪れているのか、また今後どのような遺跡活用を望んでいるのかなどについて多くの対象者から回答を得ることができた。また、須田区に全戸配布したアンケートについては、地域住民に湯舟坂2号墳をはじめとした地域の文化財を意識してもらう契機になったという点で、意義のある活動となったのではないだろうか。

また、行政、地域住民と緊密に連携をとってプロジェクトが進んだ点も成果の一つだろう。イベントの開催にあたっては、三者で綿密に連絡を取りながら準備を行い、活動を進めることができた。大学として調査や普及活動に関わるにあたって、行政や地域住民との間で活動内容や意識を共有することは非常に大切であるが、そうした点で当地域での実践においては円滑に進めることができたのではないだろうか。加えて、地域住民と直接対話することによって、彼らが大学に期待していることや地域に対する思いなどを深く知ることができたことも大変貴重であった。アンケートでの分析では、地域住民の表面的な思いは知ることができるが、やはり直接的に話すことによって、より深く彼らの気持ちを知ることにつながり、今後の活動を考える上でも有意義な話をすることができた。

今回のプロジェクトでは、京都府立大学のみならず、奈良文化財研究所や元興寺文化財研究所、株式会社相互技研などの協力も得ながら活動が進んだ。このように多くの研究機関が参加し、活動を進めることができたことも大変評価できる点なのではないだろうか（図26）。様々な専門を持つ研究機関が関わることによって、より多くの活用のためのアイデアが生まれ、その幅を広げていくことも可能となるのである。

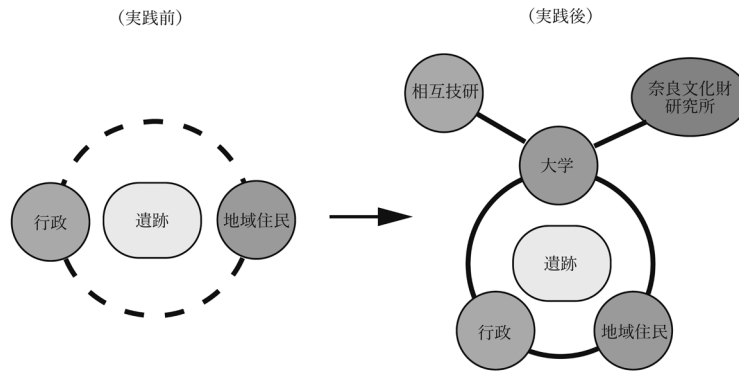


図 26 京丹後市での実践前と実践後

(2) 課題

京丹後市における活動で、まず課題に挙がるのは、地域住民と触れ合い、プロジェクトについて知ってもらう機会が少なかったという点だろう。湯舟坂2号墳のある須田区の住民は、これまでの調査やイベントなどに対して大変協力的であったが、2021年10月の慰霊祭前日に地域住民にヒアリングを行った際には、大学が行う調査やその他の活動などに理解を示しつつも、地域住民が学生たちと触れ合う機会が少なく、実際に大学が何をしているのかよく分からない、という現状に対して不満を抱いているということが分かった。また、アンケート結果を見ても、湯舟坂プロジェクトの認知度はそれほど高くなく、区の人々からは具体的な大学の活動内容はあまり浸透していないことが分かった。こうした課題の解決には、調査の際に、ただ大学として調査を行うだけではなく、地域住民と協力して遺跡の周りの草刈りをするなど、大学としての活動の中で少しでも地域住民と関わることでできる関係性を創出していくことが今後必要になるだろう。

また、「湯舟坂プロジェクト」があまり認知されていないことに加え、湯舟坂2号墳を「ただの遺跡」ととらえている人が非常に多いという点も課題として残った。須田区では毎年10月に湯舟坂2号墳の慰霊祭が行われているが、そうした催しがあるにも関わらず、「ただの遺跡」と捉えている人が多いという結果は、慰霊祭自体が形骸化してきていることの表れではなかろうか。こうした課題

の解消には、大学や行政などの普及・啓発やそれに伴う周知活動が必要にはなるが、具体的にそれぞれのどのような活動が求められるのかについては後述する。

さらに、2021年7月に行われたACTR成果報告会やその他京丹後市内の資料館で行われた湯舟坂2号墳に関する企画展に訪れた須田区の住民が少なかったという点も課題点として挙げておきたい。ACTR成果報告会は、京丹後市久美浜町にある久美浜庁舎にて行われたが、須田区からは7km程度離れており、年配の方が多い須田区の住民の中には、足を運ぶことができない方もいたようである。京丹後市内の資料館についても、丹後古代の里資料館は須田区から約35km、京丹後市立郷土資料館も約20km離れている。ACTR成果報告会のアンケートからは「遺跡と遺物の距離が遠く、もっと近くに置いてほしい」という意見もあり、住民とイベント会場、遺跡と遺物といった物理的な距離をどう埋めていくのかという点も課題である。大学としては、2021年度の慰霊祭で須田区でスタンプラリーを開催する予定であったが、そのように現地で行うイベントを計画していくことは、そうした課題の解決策の1つにはなり得るだろう。

また、アンケートから分かるように、須田区では高齢化が進んでおり、子供も大変少ないという状況の中で、今後区を担っていく人材が少ないということも遺跡を保存・活用していくうえで大変大きな課題となることは間違いないだろう。

5 今後の遺跡活用にむけて

本年度の活動を経て、今後の遺跡活用を展望してみたい。まずは、大学や行政が地域住民に働きかける際には、いかに実地的な活動ができるか、という点は重要になってくるだろう。今回、様々なイベントを行うにあたって、それらのイベントの宣伝、周知活動は、町の町内放送や、チラシの配布などによって行われた。こうした活動は当然必要になってくるものの、結果としては人があまり集まらなかったり、そもそもイベントの存在を知らないという人も比較的多く存在した。こうした課題に対して今後必要なのは、坂尻古墳現地説明会に先立って和束小学校で普及活動を行ったように、学生自らが現地に赴いて、イベントの周知を行うなどの活動をしてよいのではないだろうか。他地域の間人がその地域に介入することを好ましく思わない住民もいるだろうが、地道にそうした活動を行うことにより、顔見知りになり、興味を持ってもらえたり、信頼してもらうことにも繋がるかもしれない。須田区では、地域住民が共同で行っている草刈りなどを学生も調査の際に参加することを予定しているが、そうした地域住民が行う作業を協働で行うことも、信頼を得る一つの手段だろう。須田区では、遺跡の周りの草刈りなどを地域の作業として定期的に行っているが、大学としても調査に際してそうした作業を手伝うなどの活動をしていくことも必要になるのではないだろうか。

また、京丹後市においては住民とイベント会場、遺跡と遺物の物理的な距離の遠さが課題に挙げたが、その解決策として新しい技術を活用に取り入れていくという点も、今後重要になってくるだろう。高精細な写真や、3Dモデルとして石室内を見ることが可能な技術なども発達してきている昨今、パソコン上で石室の中に入る体験ができたり、VRを駆使したりと、現地に行かなくても遺跡の価値に気づくことができるような方法を積極的に利用することで、新たな遺跡活用の可能性を広げていくことにも繋がるだろう。

おわりに

調査を行った地域において、その調査成果を遺跡の活用などを通して地域に還元することは、大学に求められる大きな役割である。しかしながら、こうした取り組みが最終的に目指すところは、あくまで大学が関わらずとも、地域の中で適切に遺跡が保存・活用されることである。そのためには、今年度のような活動を今後も粘り強く、継続的に行い、地域住民の自発的な活動を促すような仕掛けづくりが必要となる。今回の活動は、そうした意味ではまだ始まったばかりであり、今後もさらに改善を重ね、地域に資する形で遺跡活用に取り組んでいきたい。

本稿は、筆者の2021年度卒業論文の内容の一部である。本稿の執筆にあたりご指導くださった菱田哲郎先生、諫早直人先生に感謝申し上げます。また調査にご協力いただきました和束町町史編さん室、京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区の皆様にお礼申し上げます。なお、各活動の参加学生は以下の通りである。

【和束町】

- ・2021年9月4・5日 「和束町史編纂室展示」
土井悠起・松田篤・福田麻衣・梅野留美子・増田慧子・藤川聖起・依田萌奈
- ・2021年10月30日 「学ぼう和束の歴史」
土井悠起・松田篤・福田麻衣・梅野留美子・増田慧子・藤川聖起
- ・2022年1月22日 「坂尻古墳群現地説明会」
土井悠起・吉永健人・吉田裕太・福田麻衣・梅野留美子・増田慧子・藤川聖起・依田萌奈

【京丹後市】

- ・2021年7月24日 ACTR 成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」
溝口泰久・土井悠起・吉永健人・守田悠・小林楓・池田野々花・伍雅涵
- ・2021年10月17日 湯舟坂2号墳慰霊祭

- 溝口泰久・小林楓・池田野々花・土井悠起・
松田篤・吉永健人・守田悠
・須田平野古墳看板作成・設置
溝口泰久・土井悠起・松田篤・吉永健人・
守田悠・藤川聖起・梅野留美子

参考文献

- ・ 諫早直人 2021 「古墳を地域資源化する一湯舟坂 2号墳プロジェクトの挑戦」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第7号、京都府立大学文学部歴史学科、pp.30 - 31
- ・ 京都府立大学文学部考古学研究室・中世史研究室 2015 「大宮売神社の資料調査と展示」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第1号、京都府立大学文学部歴史学科、pp.5 - 12
- ・ 京都府立大学文学部考古学研究室 2015 「鷲峰山金胎寺の測量調査」『和東地域の歴史と文化遺産』（京都府立大学文化遺産叢書第9集）京都府立大学文学部歴史学科、pp.7 - 16
- ・ 京都府立大学文学部考古学研究室 2020 「和東町和東天満宮周辺における考古学的調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第6号、京都府立大学文学部歴史学科、pp.91 - 98
- ・ 京都府立大学文学部考古学研究室 2021 「和東町坂尻古墳群の調査（1）」『フィールド調査集報』第7号、京都府立大学文学部歴史学科、pp.110 - 115
- ・ 櫛木謙周 2015 「恭仁京東北道の歴史的意義」『和東地域の歴史と文化遺産』（京都府立大学文化遺産叢書第9集）京都府立大学文学部歴史学科、pp.41 - 46
- ・ 菱田哲郎 2015 「和東川流域の古墳」『和東地域の歴史と文化遺産』（京都府立大学文化遺産叢書第9集）京都府立大学文学部歴史学科、pp.35 - 40
- ・ 向井祐介 2016 「大宮売神社遺跡出土遺物の調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第2号、京都府立大学文学部歴史学科、pp.29 - 32

資料（アンケート結果）

和東町史編さん室展示
「古墳から見る和東の歴史」
アンケート結果

2022
京都府立大学文学部歴史学科 4 回 土井悠起

凡例

- 今回のアンケートは、和東町史編さん室と京都府立大学文学部考古学研究室が協働で開催した「和東町史編さん室展示」の中で、同研究室が行った町内の古墳に関する展示における来場者の感想や文化財に対する意識を調査する目的で行ったものである。
- アンケートは、古墳の展示を見ていただいた来場者に対して手渡しにより配布し、ご協力いただいた。
- 回答集計項目のうち、nは回答者の人数を指している。

質問 1 性別を教えてください
1. 男 2. 女 3. 無回答

n	回答 1	回答 2
9	4	4

質問 2 年代を教えてください
1. 10代以下 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上 8. 無回答

n	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	回答 8
9	2	0	0	0	1	2	3	1

質問 3 お住いの地域を教えてください
1. 和東町内 2. その他 ()

n	回答 1	回答 2
9	0	1

質問 4 本展示会の満足度はいかがでしたか
1. 大満足 2. 満足 3. 普通 4. 物足りない

n	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4
9	4	4	1	0

質問 5 本展示会について意見、感想などあればご自由にお書きください
○茶のことがいろいろしかなかったので、知れてよかった
○太鼓山でいろいろしかなかった。驚き。
○観光スポットになってほしい
○これからも和東の歴史を勉強したいと思った。

質問 6 和東町内の遺跡（古墳など）を実際に見に行ったことがありますか
1. はい 2. いいえ

n	回答 1	回答 2
9	7	2

質問 7 (はいと回答された方) 訪れた遺跡などの場所を教えてください
○坂尻古墳
○太鼓山古墳
○福塚古墳

質問 8 和東町内の遺跡に関するイベントに興味はありますか
1. はい 2. いいえ

n	回答 1	回答 2
9	3	1

質問 9 皆さんにとって、和東の遺跡などの文化財はどのような存在ですか。また、今後そうした文化財がどのように活用されることが望ましいと思いますか。ご自由にお書きください。
○和東の歴史を知る大切なもの。
○義務教育の中で説明してもらえたらと思う。
○和東の象徴となるもの。
○大切に保存され、みんなに知ってもらえればいい。

和東町史編さん室展示 「古墳から見る和東の歴史」 アンケート結果

和東小学校
「和東の歴史に関するアンケート」
アンケート結果

2022
京都府立大学文学部歴史学科 4 回 土井悠起

凡例

1. 今回のアンケートは、2022年1月22日に開催された「坂尻古墳群現地説明会」先立ち、和東小学校の生徒の意識調査をする目的で実施した。
2. アンケートは、和東小学校の3年生から6年生を対象に実施した。アンケート用紙の印刷、配布などは同小学校にご協力いただいた。
3. 回答集計項目のうち、nは回答者の人数を指している。

質問1 学年を教えてください

1. 3年生 2. 4年生 3. 5年生 4. 6年生

n	回答1	回答2	回答3	回答4
88	17	23	19	27

質問2 性別を教えてください

1. 男 2. 女

n	回答1	回答2
3年生	15	8
4年生	23	11
5年生	19	8
6年生	27	14
計	64	41

質問3 みなさんにとって和東の自慢できるところはどこですか？

- 茶畑
自然が多い
川がきれい
ロソソ
人が優しい
動物
災害が少ない
コロナにかかりにくい
寺

質問4 和東の歴史に興味がありますか

1. とても興味がある 2. 少し興味がある 3. どちらでもない
4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

n	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
3年生	17	4	9	1	1
4年生	23	4	11	4	2
5年生	19	1	10	8	1
6年生	27	4	15	4	0
計	66	13	45	17	4

質問5 和東には「古墳」というものがあります。古墳とは、昔の人の墓なのです。さて、来年の1月に、その古墳を探検するイベントを行います。あなたは行ってみたいと思いますか。

1. 行ってみたい 2. 行きたいと思わない

n	回答1	回答2
3年生	17	7
4年生	22	5
5年生	19	12
6年生	27	7
計	85	29

(「行きたいと思わない」と答えた人) その理由を教えてください。

- 虫が多そう。
死体を掘り起こすみたいだから。
お茶の歴史の方が知りたい。
興味がないから。
古墳説明会に行ったことがあるから。
正月だから。

質問6 皆さんが行きたいと思うイベントは次のうちどれですか。あてはまるものすべてを選んでください

1. 古墳探検 2. 土器づくり 3. スタンプラリー 4. お祭り
5. その他 ()

n	回答1	回答2	回答3	回答4	その他	その他 (記述回答)
3年生	17	6	7	3	14	1
4年生	22	13	13	15	21	0
5年生	19	1	5	4	17	0
6年生	26	8	5	7	23	0
計	84	28	30	29	75	1

京都府立大学 ACTR 成果報告会 in 久美浜
「地域資源としての湯舟坂 2 号墳」
来場者アンケート結果

2022

京都府立大学文学部歴史学科 4 回 土井悠起

凡例

1. 本アンケートは、2021 年 7 月 24 日に開催された京都府立大学 ACTR 成果報告会 in 久美浜「地域資源としての湯舟坂 2 号墳」における来場者を対象に、成果報告会の感想や湯舟坂 2 号墳に対する意識などを調査する目的で実施した。
2. アンケートは、当日使用した冊子、チラシなどとともに、来場者全員に配布した。
3. 回答集計項目のうち、n は回答者の人数を指している。

質問 1 性別を教えてください

1. 男 2. 女 3. 無回答

	n	回答 1	回答 2	回答 3
湯田区	6	3	3	0
京丹後市	36	23	13	0
その他	7	3	4	0
合計	49	29	20	0

質問 2 年代を教えてください

1. 10 代以下 2. 20 代 3. 30 代 4. 40 代 5. 50 代
6. 60 代 7. 70 代以上 8. 無回答

	n	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	回答 8
湯田区	6	0	0	0	0	0	1	5	0
京丹後市	36	2	0	2	2	4	12	16	0
その他	7	0	1	0	1	2	2	1	0
合計	49	2	1	2	3	6	16	19	0

質問 3 お住いの地域を教えてください

1. 湯田地区 2. 京丹後市 3. その他 ()

n	回答 1	回答 2	回答 3
49	6	36	7

質問 4 本成果報告会を何で知りましたか

1. チラシ 2. インターネット 3. その他 ()

n	回答 1	回答 2	その他 (記述回答)
湯田区	6	3	0
京丹後市	36	27	0
その他	7	1	1
合計	49	31	1

質問 5 本成果報告会の満足度はいかがですか

1. 大満足 2. 満足 3. 普通 4. 物足りない

n	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4
湯田区	5	1	0	0
京丹後市	26	9	15	0
その他	5	2	3	0
合計	36	15	23	0

質問 6 本成果報告会について意見、感想などあれば自由にお書きください

【湯田区】

○3D、大刀の立派さ、きれいに感動しました。

【京丹後市】

○保存地理や写真の取り方など、詳しく説明していただけで興味深かった。

○写真の取り方は、いろいろな場面で役立つと思う。

○質疑応答の時間がほしい。

○初めて参加したが、古墳に興味を持った。

○保存修復の技術や撮影方法の変化によって、遺物の細部などが鮮明に見えてきました。

○免職当時は、実物を見ることができなかったため、今回学ぶ機会を設けてもらえたことがよかったです。

○塚本先生の保存科学のお話について、話し方や内容に惹かれるものがあった。

○満足いく幅と深さのある報告でした。

○今日までの成果と課題がはっきりと示されていてよかった。

○奥村誠一郎先生にお会いできて大変うれしく思います。

○環瀬大刀についての詳細な説明があればよかったです。

○しっかりとよくまとめられ、いろいろと研究されていることがよく分かる

質問 7 「湯舟坂 2 号墳細見」展 (4/24 ~ 6/20 京都府立丹後郷土資料館) を見に行きましたか

1. はい 2. いいえ

	n	回答 1	回答 2
湯田区	6	2	4
京丹後市	36	12	24
その他	7	3	4
合計	49	15	33

質問 8 「地域の中の湯舟坂 2 号墳」展 (4/24 ~ 8/1 京丹後市丹後古代の重宝資料館) を見に行きましたか

1. はい 2. いいえ

	n	回答 1	回答 2
湯田区	6	1	5
京丹後市	36	10	26
その他	7	3	4
合計	49	16	33

京都府立大学 ACTR 成果報告会 in 久美浜 「地域資源としての湯舟坂 2 号墳」 来場者アンケート結果 1

質問9 湯舟坂2号墳の調査、あるいは現地説明会に参加した経験はありますか

1. はい 2. いいえ

	n	回答1	回答2
湯田区	6	2	4
京丹後市	35	4	31
その他	7	1	6
合計	48	7	41

(はいと回答された方) 当時の様子や感想など、ご自由にお書きください

【須田区】

- 3000人見学者があったと聞いています。
- まさか近くの田んぼでこのような大変なことが起きるとは思わなかった。感激です。
- 【京丹後市】
- 調査説明会に参加しました。初めて古墳を見て、当時の人々の暮らしがどうだったのか調べてみたいと思った。
- 考古学の幕開け時代に発掘された感じがしている。それから考古学に関心を持つようになった。

【その他】

- すばらしい。

質問10 湯舟坂2号墳を訪れたことはありますか

1. はい 2. いいえ

	n	回答1	回答2
湯田区	6	0	0
京丹後市	35	19	16
その他	7	3	4
合計	48	22	20

質問11 湯舟坂2号墳で出土した遺物を見たことがありますか

1. はい 2. いいえ

	n	回答1	回答2
湯田区	6	5	1
京丹後市	35	22	13
その他	6	3	3
合計	47	30	17

(はいと回答された方) それらの遺物をどこで見ましたか

1. 須田公民館 2. 京都市立丹後郷土資料館 3. その他 ()

	n	回答1	回答2	その他(記述回答)
湯田区	6	4	1	1
京丹後市	32	0	20	2
その他	7	0	3	0
合計	45	4	24	3

質問12 湯舟坂2号墳の石室や出土遺物を見た際の感想や、それらの活用のされ方に対する意見などがあればご自由にお書きください

【須田区】

- 地元住民としてこんな立派な人物がいたことを誇りに思う。
- 古代人の知恵・力の立派なこと。活用は難しいと思います。
- うちの田んぼでこのような大変なことが起きていたのかと思うと感激です。何も知らずに作物を一生懸命作っていました。

【京丹後市】

- 高度な技術が一般に紹介されて面白かった。
- 黄金の大刀だけが取り歩きして墳墓の方が置き去りにされている感じがする。
- 京丹後市は遺跡に対する取り組みが弱い。
- 調査成果を発表する機会を今後設けるべき。
- PRして、PRして、丹後の魅力発見につなげてほしい。
- 環頭大刀を見たときには本当に驚いた。
- 仏教用具が出てきたといわれびっくりしました。

【その他】

- すばらしい

質問13 湯舟坂2号墳をはじめとした、地域の文化遺産に関するイベントに興味はありますか

1. はい 2. いいえ

	n	回答1	回答2
湯田区	6	5	0
京丹後市	34	33	1
その他	6	6	0
合計	46	44	1

質問14 今後湯舟坂2号墳の調査成果をどのように活用していくことが望ましいと考えますか。

また、皆さんにとって湯舟坂2号墳とはどのような存在ですか。ご自由にお書きください。

【須田区】

- もっと近いところに資料館ができると大勢の人が関心を持つと思います。
- かけがえない遺産ですから、若い世代にもう少し理解してもらい、古墳の大切さを知らせたい。
- 私としては老人会で草刈りに関わっていて、心のよりどころになっています。
- 地元としての誇り。何とか活用できることを願っています。
- 須田の皆さんにとっては大変誇りに思います。

【京丹後市】

- 古墳や遺跡を単体で見ただけでは、その頃の地域の姿を想像するのは難しいと思う。
- ほかの人にもこのような遺産があることを伝えていきたい。
- 授業などで知る機会を持たないか。
- 子供たちに伝えていくことが大切だ。
- 日進月歩で専門家による研究を期待します。
- あまり身近に感じられない。成果は広く市民に知らせしてほしい。
- 当時の文化や風習、人々の暮らしが分かる展示や体験会をしたら、より身近に感じられて子供たちにも興味を持ってもらえるかと思いました。
- 久美浜町の宝物。
- 地域資源として歴史ファンだけでなく、もっと広く歴史的価値を多くの人に知ってもらいたい。
- 常設展示でこのような展示が常時見ることができるといいと思った。
- 活用方法を市民及び研究者がより考えて意識のある活用をすること、出版物で残すこと。
- 環頭大刀を大いにPRして、観光に結び付けてほしい。
- このような素晴らしい遺跡があることを、子供たちにもしっかりと伝えてもらえたらと思います。
- 地元のことを心から誇りに思える人が一人でも多くなるのが大切だと思います。
- 京丹後市の誇りとして守りもってみんなに宣伝してほしいです。

【その他】

- 地元の人で活用のアイデアを出していけるといいと思う。
- 丹後の宝

須田区全戸配布アンケート
アンケート結果

2022

京都府立大学文学部歴史学科 4 回 土井悠起

凡例

1. 本アンケートは、2021年11月に京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区の協力のもと、同須田区民の遺跡などに対する意識や湯舟坂プロジェクトの認知などを問うことを目的として実施した。
2. アンケートは、京丹後市久美浜町須田区全戸に対して、アンケート以外に学生が作成したチラシやポストカード、地域住民に対するチラシなどをファイルに入れて配布を行った。
3. 回答集計項目のうち、nは回答者の人数を指している。

質問1 性別を教えてください

1. 男 2. 女 3. 無回答

n	回答1	回答2	回答3
73	39	32	2

質問2 年代を教えてください

1. 10代以下 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上 8. 80代以上 9. 無回答

n	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	回答8	回答9
73	2	3	5	4	9	20	17	10	9

質問3 いつ頃から須田区にお住まいですか

1. 生まれたとき 2. 約 () 年前から

n	回答1	回答2
72	38	34

質問4 身の回りの遺跡や文化財について、関心がありますか

1. 大変関心がある 2. 少し関心がある 3. 普通
4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

n	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
72	13	12	20	20	7

質問5 1981年の湯舟坂2号墳の発掘調査や現地説明会について、あてはまるものを教えてください

1. 発掘調査に参加した 2. 現地説明会に参加した
3. 見ていない

n	回答1	回答2	回答3
73	2	20	51

質問6 湯舟坂2号墳に最後に行ったのはいつですか

1. 今年 2. 数年前 3. 数十年前 4. 行ったことがない

n	回答1	回答2	回答3	回答4
73	12	30	14	9

質問7 湯舟坂2号墳出土品を最後に見たのはいつですか

1. 今年 2. 数年前 3. 数十年前 4. 見たことがない

n	回答1	回答2	回答3	回答4
73	1	7	37	28

質問8 今年の春から夏にかけて行われた湯舟坂2号墳発掘40周年を記念した企画展や報告会に行きましたか

1. 「湯舟坂2号墳発見」展 (4/24～6/20 京都府立丹後郷土資料館) に行った
2. 「地域の湯舟坂2号墳」展 (4/24～8/1 京丹後市立丹後古代の里資料館) に行った
3. 京都府立大学 ACTR 成果報告会 in 久美浜「地域資源としての湯舟坂2号墳」(7/24 久美浜庁舎) に行った
4. 行かなかった(理由:)

n	回答1	回答2	回答3	回答4
73	0	1	4	68

回答4の理由

- コロナ禍のため
 遠方のため
 知らなかった
 興味がないから
 以前来たことがあるから

質問9 湯舟坂2号墳をはじめとする古墳以外の須田区の文化財や須田区の魅力について教えてください

質問9 湯舟坂2号墳をはじめとする古墳以外の須田区の文化財や須田区の魅力について教えてください

- 良い歴史を持つものが今も大切に保存されているのが素晴らしいと思う。
- 寺・神社。
- 住みやすさ。
- 歴史が深い。
- おせん様の板並木、蛸、大雲寺本堂と大雲寺山門。
- 古いものが多い。
- 自然。
- 川上厚須の居住地。
- 豊かな自然、おいしいお米。
- 三嶋田神社。
- 坂がきれい。
- 緑が青々。
- 田んぼと畑しかないのかな。シカやイノシシと戯れることができるかも。
- 歴史資源や伝承地が多い。
- お寺・神社が多い。お地蔵さんも多くある。

質問10 湯舟坂2号墳をはじめとする須田区の古墳は、皆さんにとってどのような存在ですか
(複数回答可)

1. 地域の誇り
2. ご先祖様のお墓
3. 観光資源
4. ただの遺跡
5. その他 ()

n	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
61	28	11	7	22	1

質問11 湯舟坂2号墳をはじめとする須田区の文化財が今後も地域資源として守り伝えられているためには何が重要だと思いますか

- 環境整備
- 地域に住む若年層の住民がもっと詳しく理解していくことが大切だと思います。
- 区民が意識できるようにするなにか。
- ボランティア精神と協力。
- 関係者の協力。
- 京丹後市教育委員会等の指導のもと管理。
- 他地域も協力して歴史を埋める。
- 広報活動、予算、地域住民力を出し合う必要がある。
- 須田区の団結。
- 村の人みんなで湯舟坂でお参りしたり集まる。
- おお。
- お金と区民の減少を抑えること。
- 面白い立て看板や標識などで雰囲気上昇を。
- 住民の意識の高揚。
- 須田地域が若返ること。
- 湯舟坂2号墳の出土品を近くで展示すること。
- 小学校などに土坑見学してもらって社会見学を継続すること。
- 若い方の協力が必須。年配の方だけでは偏った意見や考えしかないのでは、このままではすたれていくと思います。
- 100基以上の古墳の周知。
- 楽しいイベントを考える。守っていくためには予算も必要。

質問12 昨年度から京都府立大学と京丹後市教育委員会と須田区と一緒に湯舟坂2号墳やその出土品などの地域資源化を行う「湯舟坂プロジェクト」がスタートしていることを知っていますか

1. 知っている
2. 知らなかった

n	回答1	回答2
66	11	55

質問13 湯舟坂プロジェクトに、今後どんなことを期待しますか

- より多くの久美浜町内外の人に知らせていくことが必要と考ええる。
- 広まっていくこと。
- 地域と一緒に進めることが望ましい。
- ゴールの明確化。
- 村の人みんなで何かをすることが望ましい。
- 保存をしっかりとすることを優先。
- 区民を巻き込むこと。
- 教授や学生さんが面白がって来てやろうという受け入れ地の気持ちが必要。
- より多くの人に遺跡や出土品の内容を知ってもらい、観光資源と地域の活性化に繋がる取り組みを推進。
- 日本全国に知られるようになれば観光客も増え、珍しさのために人も多くなるだろう。訪れたいと思うような人の心をつかめる場所づくりが必要。
- 長くプロジェクトが長くようなシステムを作ってほしい。
- このプロジェクトにより地域がもっとも活性化されるのがよいと思う。
- 歴史遺産の総合的な活用による地域の活性化。